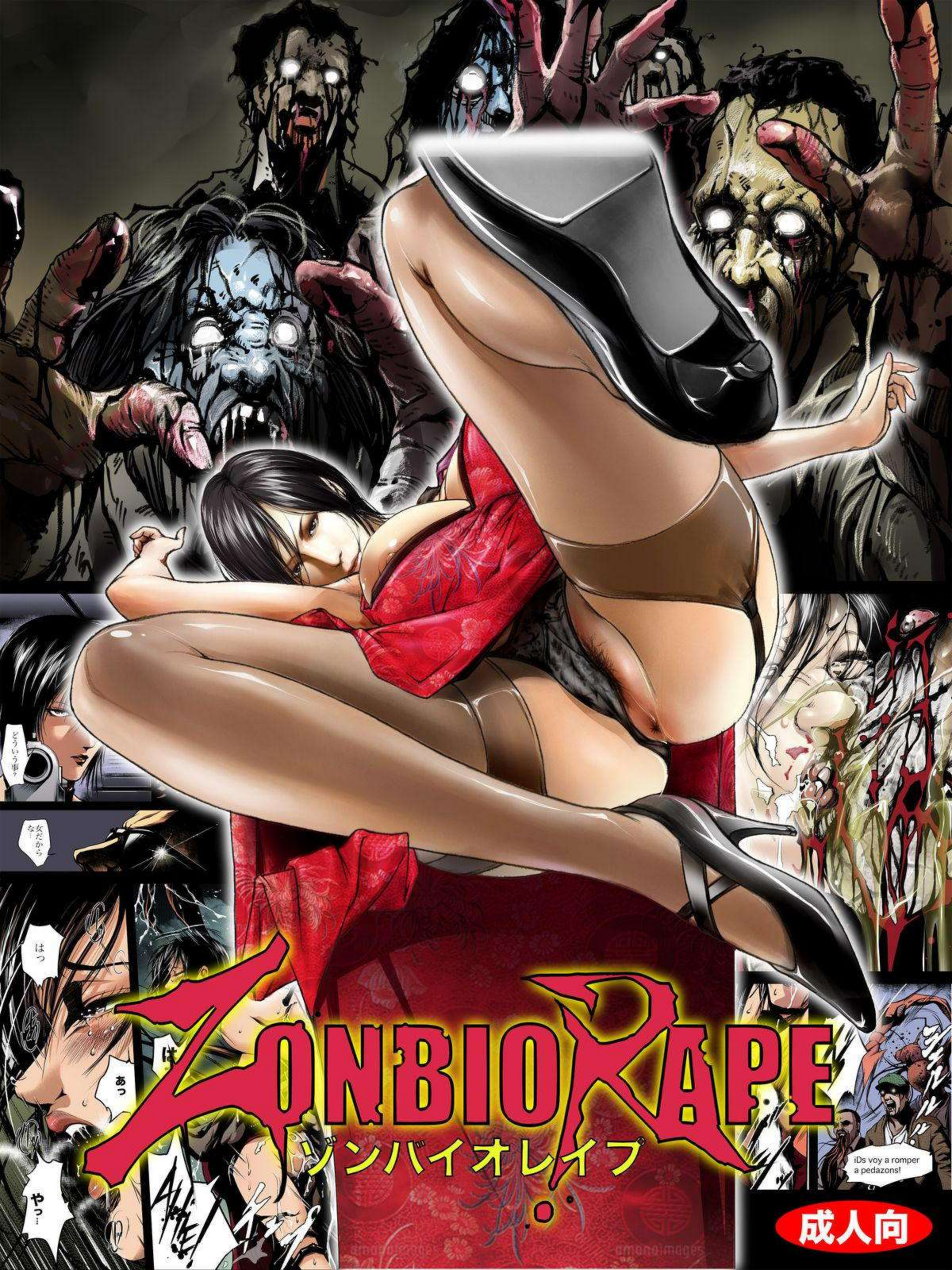

ZONBIO RAPE
ゾンバイオレイプ
成人向
どういう事？
女だからな！
はっ
あっ
やっ…
¡Ds voy a romper a pedazons!

ZONBIO RAPE
ゾンバイオレイプ
どういう事?
女だからな!
はっ
あっ
やっ…
¡Ds voy a romper a pedazons!

コードネーム「エイダ」

一流の戦闘技術と判断力を持つ、高度な特殊工作員

そのただ一つの例外とは「女性」であるということ

主に軍事産業に関与する企業組織が極秘裏に扱う産業スパイであり、本人自身の生い立ち、素性に至ってはただ一つの例外を除いて一切が不明である。

amanaimages

GWAARRRR.!
あ.
な.
BANG!
BANG!
BANG.
カチ

犯れ
¡Ahi esta!
¡Agarrlo!
くっ！
¡Un forastero!
はっ…
¡Agarrlo!
¡¡Cogedlo!

まずはじっくり君の体を調べさせてもらう

外皮から始まり穴という穴

Donde esta!

君自身の生殖器官その内部に至るまで

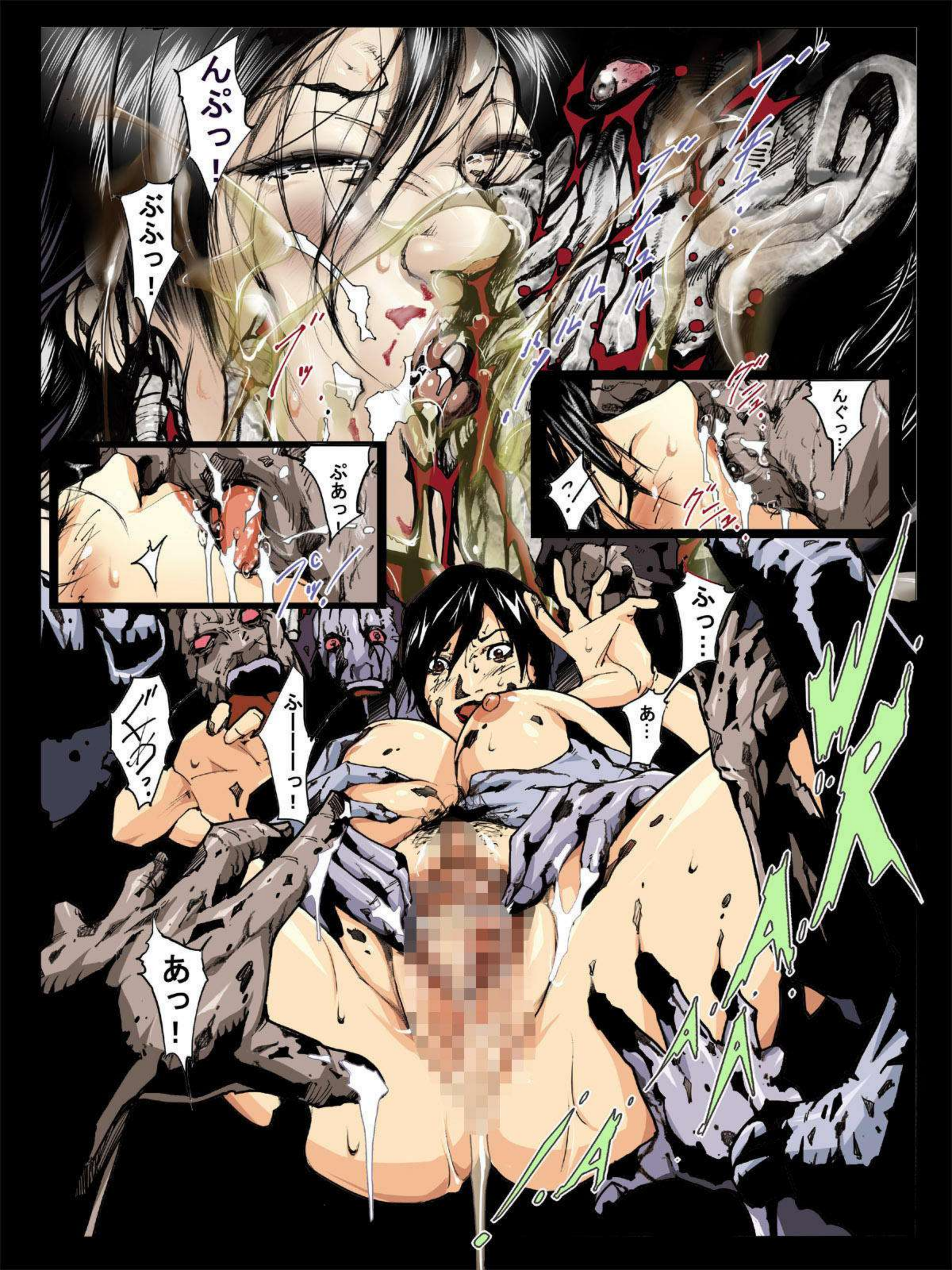
いやっ！

あ…

あ

隅々まで丹念になフフフ…

ガッ!
うあっ…
あっ…
ぐるあ…
くっ
うあっ…
あっ…
はっ!
くっ
はっ
おがあ!
Jyu.
Jyu.
Jyu.
Jul.
Ju.
Jyu.
Ch.!


んぷっ！
ぶふっ！
ぶぁっ！
んぐっ…
っ！
ふっ…
あ…
ぐぁっ
ふ――っ！
あっ！

んんんんっ！

¡Ds voy a romper a pedazons!

こいつらは我々が地獄から生還させた猛者達でね

んんんんっ！

我が教団の信者達は馬鹿にできまい

んぐっ！

淫行は忠誠心を促す…君は生け贄としては具合がいいようだ

楽しませてもらおう
はっ
っ…
失禁したか
だがこれで終わりではない
あ…
あっ

こいつら尿をすすっている

はああ…もう…やめ…

Load Saddler...

はっ

iTe cogil

これは聞き出す為の拷問じゃない

もっと別の…

…気がついたか

あっ

あっ

お前を選んだのは別の目的があっての事…

機密を知る方法は他にもある

あっ

いやっ！

お友達から聞いているんじゃないかね…何か

…っ！

なめられたものね…

あたしの口から機密が漏れると？

そうじゃない

口を割る割らんは関係ない お前には別の価値があるということだ

どういう事？

その時が来ればわかるさ

女だからな…

お前は我々の子を宿せばそれでいい

異種交配！ こいつら種を植えつける気だ

モルモットとしてな

ハッ

ぶるるる

女の体液はこいつらの養分となる

君には着床までお相手願おう

死にたくなければ…

逆らわぬことだ…

い…

あっ あっ

はっ

あっ

はあああっ

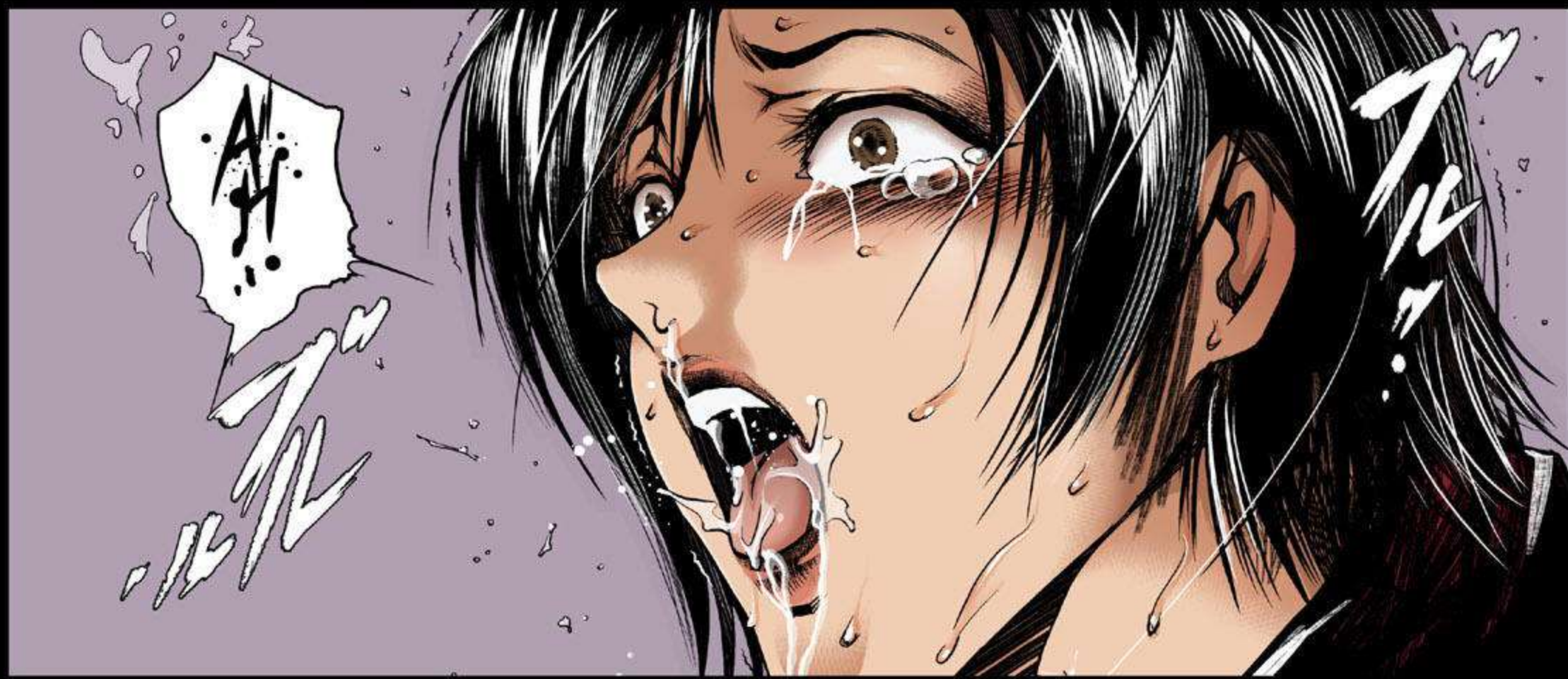
あんっ…
あんっ！
はんっ！
はうううっ！
んぶっ…
んぐっぷぷぷぷっ
いや…

はっ
あっ
やっ…
はっ
あっ
あっ
あっ
ああっ!
MY GOD
…っ
¡Te cogi!
¡Eso cerdo!

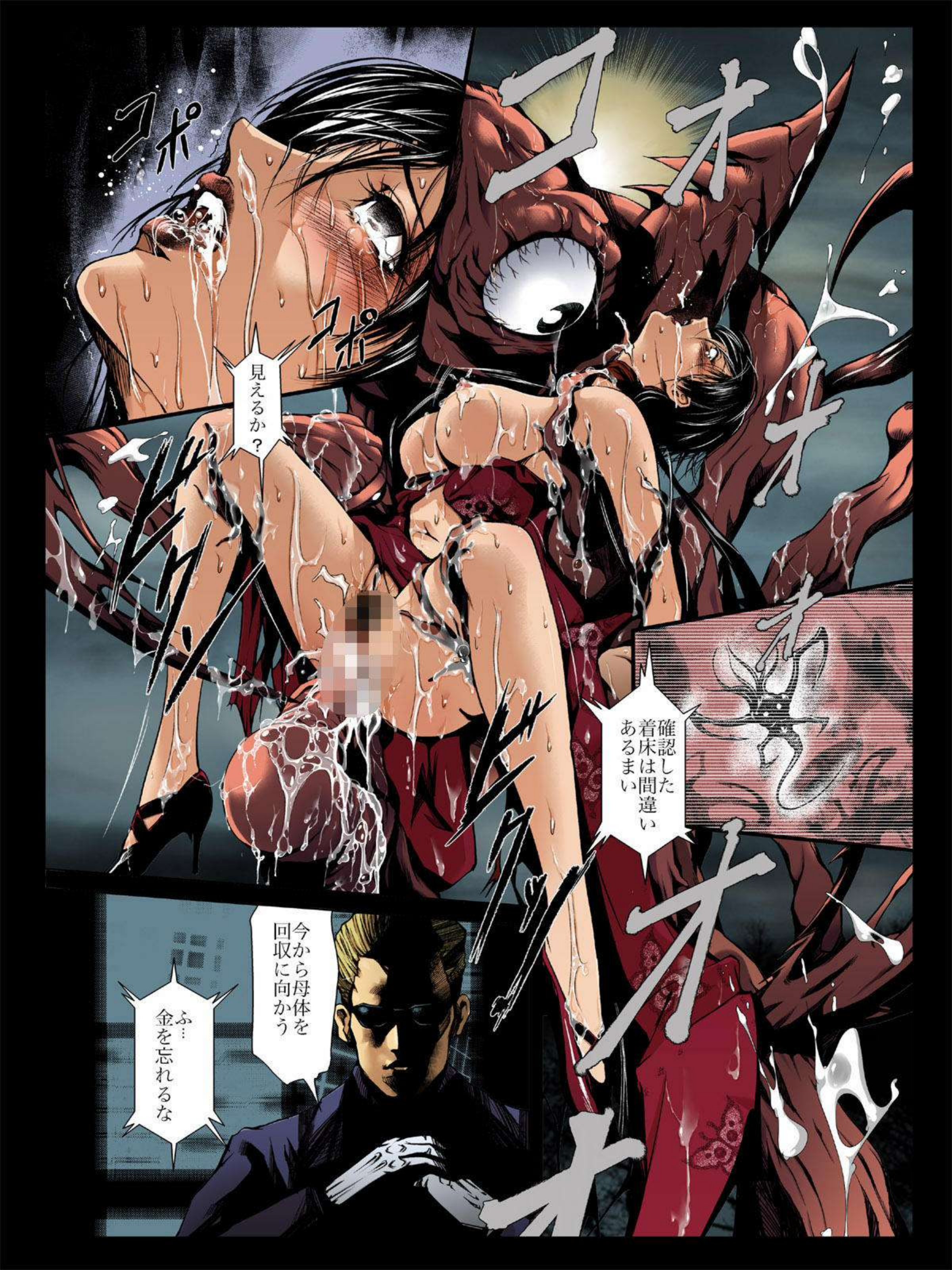
あっ

あ…

あ…



は…
ひっ…


フポ
フポ
見えるか？
確認した
着床は間違い
あるまい
今から母体を
回収に向かう
ふ…
金を忘れるな

金額は歩合だ
新種の性能を
楽しみにしている

END

どういう事?
女だからな!
はっ
はっ
あっ
やっ…
ZONBIO RAPE
ゾンバイオレイプ
¡Ds voy a romper a pedazons!

コードネーム「エイダ」

一流の戦闘技術と判断力を持つ、高度な特殊工作員

そのただ一つの例外とは「女性」であるということ

主に軍事産業に関与する企業組織が極秘裏に扱う産業スパイであり、本人自身の生い立ち、素性に至ってはただ一つの例外を除いて一切が不明である。

GWAARRRRR!
あ!
な!
BANG!
BANG!
BANG!

犯れ
¡Ahi esta!
¡Agarrlo!
くっ!
¡Un forastero!
はっ…
¡Agarrlo!
¡¡Cogedlo!

まずはじっくり君の体を調べさせてもらう

外皮から始まり穴という穴

Donde esta!

君自身の生殖器官その内部に至るまで

いやっ！

あ…

あ

隅々まで丹念になフフフ…

あっ…
ガッ!
うあっ…
ぐるぁ
くっ
うあっ…
あっ…
はっ!
くっ
はっ
おぉぉ
Jul.
Ju.
Jyu.
Chu.

んぷっ！
ぶふっ！
んぐっ…
っ！
ぷあっ！
ふっ…
あ…
ふ――っ！
ぐあっ！
あっ！

んんんっ！
iDs voy a romper a pedazons!
こいつらは我々が地獄から生還させた猛者達でね
んんんんっ！
我が教団の信者達は馬鹿にできまい
んぐっ！
淫行は忠誠心を促す…君は生け贄としては具合がいいようだ

楽しませてもらおう

あ…
あっ

失禁したか
だがこれで終わりではない

こいつら尿をすすっている
はあ…もう…やめ…
Load Saddler...
はっ
iTe cogil
これは聞き出す為の拷問じゃない
もっと別の…
…気がついたか
あっ
あっ
お前を選んだのは別の目的があっての事…
機密を知る方法は他にもある
あっ
いやっ！
お友達から聞いているんじゃないかね…何か
…っ！

なめられたものね…

あたしの口から機密が漏れると？

そうじゃない

口を割る割らんは関係ない お前には別の価値があるということだ

どういう事？

その時が来ればわかるさ

女だからな…

お前は我々の子を宿せばそれでいい

異種交配！ こいつら種を植えつける気だ

モルモットとしてな

女の体液はこいつらの養分となる

君には着床までお相手願おう

死にたくなければ…

逆らわぬことだ…

ギッ

い…

はっ

あっ あっ

あっ

はあああっ

あんっ…

あんっ！

はんっ！

はうううっ！

んぶっ…

んぐっぷぷぷぷっ

いや…

はっ
あっ
やっ…
はっ
あっ
あっ
あっ
ああああっ！
MY GOD
…っ
¡Te cogi!
¡Eso cerdo!

あっ

あ…

あ…

は…
ひっ…

フポ
フポ
見えるか？
確認した
着床は間違い
あるまい
今から母体を
回収に向かう
ふ…
金を忘れるな

金額は歩合だ
新種の性能を
楽しみにしている

END

女スパイ異種交配

巨大なナメクジに這い回られているような不快 感に、エイダは意識を取り戻した。
「っ！！」
　手足を動かせないのは、腐肉色をしたガナードたちの触手が無 数に絡み付いているせいだった。
気絶している間に運ばれた先は、どこかの地下 室なのだろうか。
広い空間は床も壁も剥き出しのコンクリート。 切れかけ点滅している電灯の下、視界いっぱいに、自分を取り囲むガナードたちの姿が飛び込む。
弾けたザクロのような彼らの肉裂け目からは、 粘液にまみれた触手が何本も飛び出している。ぐちゅぐちゅと蠢めく触手たちは、涎のごとく汚汁を滴らせ、エイダの肌を味わうよう に嘗め回していく。
表面こそぶにぶにした肉の感触だが、しっかり と芯を持っており、まるで腐肉製の頑強なロープだ。
おぞましさと恐怖に吐き気が込み上げるが、ガ ナード達の後ろに暗色のローブを着たサドラーを見つけ、怒りが湧き上がった。
「美しいだけの女性は多いが、君は工作員としても実に優秀だっ た。
いやまったく、大したものだよ」
　わざとらしい賛辞と拍手に、いっそう怒りが込み上げる。
（もう少しだったのに……！！）

己の失態にエイダは歯噛みする。
少しの油断が、サンプル奪回のチャンスを不意 にし、敵に捕われるという最悪の事態を招いた。だが後悔したところで、状況が好転するわけで もない。
慎重に辺りを見渡し、必死で突破口を探すが、 無数のガナードと絡みついた触手の中、脱出は絶望的に見えた。太ももにつけたガンホルダーも外されてしまっ ている。
しかも、少しでも拘束を緩めようともがいた所 で、触手の拘束は更に強まっていくだけだ。
「ぅっ！」
ギリギリと締め上げられる苦痛に、細い眉が歪 む。
不意にサドラーが節くれだった腕を振り上げ、 大きく杖を振った。エイダには判別不可能な呪文を唱え、フードの下から狂気を孕んだ視線を放つ。
「何を……」
「信者たちの胃袋にあっさり落とすには、君は惜しいのでな」
エイダに絡みついた触手が、頭と肩を床につけ たまま、
下半身を持ち上げる。深紅のチャイナドレスは、脚の付け根まで深い
サイドスリットが入っており、前後に分かれた布は、重 力に従い
ペロリとまくれ落ちた。

すらりと長い足が付け根まで露になり、ガナー ドたちの濁った視線が集中する。
蹴り技を得意とするエイダの脚は、芸術的なま でに美しかった。引き締まった筋肉を適度な脂肪がコーティングし、女性らしい曲線を作り上げている。光沢あるストッキングと黒の ガーターベルトがそれを際立たせ、腰の周辺に弛んだ深紅の絹地の下からは、黒いショーツがチラチラと覗き見える。黒絹に同色の レースをあしらった面積の小さなショーツで、けっして華美ではないのに高級感にあふれている。いかにもエイダらしい、できる女と いった下着だ。
更に伸びてきた触手が、チャイナドレスの胸部 分を引きむしるようにはだけさせた。
スナップが飛び散り、ショーツとそろいのブラジャーが露になる。服に合わせ肩紐のないデザイ ンで、豊満すぎる乳房を押し込むように固定していた。
無理やり止めていたフロントホックは、触手で 弾かれるとあっけなく外れ、ミルク色の美乳が弾みながら飛び出る。
噴き出た冷汗が、触手の体液を混ざりながら全 身をぬらぬら伝う。
エイダの嫌悪感を更に煽るように、触手たちは 我さきにと、積極的に
衣服の中へ潜りこみ始めた。
「っふ！」

ぬめつく体液をまとった触手が、ショーツごし に股間をずちゅりと舐めあげる感触に息を飲む。みるみるうちに水分を吸収したシルクが陰部に張り付き、染みとおる水分を女陰に伝 えていく。

「……ぅ」

　唇を噛み、エイダは悲鳴をなんとか飲み込む。たった一声でも 恐怖の叫びを上げてしまえば、そこから一気に恐怖のひびが入る。パニックに陥る暇なぞない。なんとか逃げる隙を掴まねば……。

叩き込まれた工作員の鉄則と、何より彼女のプ ライドが、嫌悪感を耐えさせた。

やがて一本の触手が、粘液でじっとり張り付い たショーツの股布を脇にずり寄せていく。敏感な場所がひんやりした外気に触れ、エイダの肩が小さく痙攣する。

よじれたショーツの下から、ふっくらした大陰 唇の片側が覗く。黒い茂みは淫裂の周辺まで覆っており、一本一本が太く長さもあった。触手は剛毛を弄ぶようにシャリシャリとかき 回す。

（……っく！ぅ、ぅぅ……これくらいで……！）

　いかに勇猛といえ、女性としての羞恥や、おぞましい生物に秘 所を嬲られる嫌悪感は拭い去れない。

さらに腰を高く掲げた逆さ宙吊りの体勢で、自分の下腹部に何 をされているかがはっきり見える。

　左右の脚に絡みついた触手たちは、器用に連携してエイダの膝 を曲げ、大きく股を開かせた。

　別の触手が邪魔だと言わんばかりにショーツの股布を掴み、 引っ張られた布が、丸く引き締まった尻の狭間にギリギリと喰いこむ。

（いっ…痛いっ！）

　よじれたショーツに肛門から会陰にかけて圧迫され、露になっ た秘裂はわずかにほころび開く形になった。その割れ目へと、陰毛を嬲っていた触手が伸びていく。体内へ潜り込みはせず、膣穴の入り口や小陰唇……複雑な起伏に富んだ女性器の表面全体へ体液をまぶすように、うねりながら何度も往復す る。塗り込められる触手汁が、滑る肉の合間でぐちゅぐちゅと卑猥 な濡れ音をたてる。別から伸びた細身の触手は、陰核を覆う薄膜を丁寧に剥きあげた。

「ふっ……ふぅ……」

唇を噛み締めたまま、エイダの頬に赤みが差し ていく。

アーモンドピンクの花弁は、次第に充血を増しぷくりと膨れはじめた。

つやつやした小さな赤い球は、イソギンチャクのよう な繊毛を

持つ触手が、丁寧に吸い付き磨きぬいていく。

吐き気を催す屈辱と嫌悪なのに、じわりと生理 的な熱がわきあがる。
それでも気丈に睨むエイダに見せ付けるよう、 目の前をフラフラと触手たちが揺れ泳ぐ。剥き出しの乳房に、頬に、ポタポタと半透明の粘液が糸を引いて滴り落ちていく。
　ショーツを引っぱる触手は更に力をこめ、ついに黒絹の繊維が 千切れた。それが合図と言うように、触手たちがいっせいに股間へと集合する。
「ひ！！」
　二本の触手が左右の陰唇を両側から抑え、パクリと割り開く。
　見上げる視界の先で、それまでどこに控えていたのか、腕ほど の極太触手がゆらりと鎌首をもたげる。触手の先には大きく傘をひらいたカリ首があり、つるんとした最先端からは透明な汁を滴ら せ、まるで巨大な男性器そのものだ。
「う……うぅぅ……」
あまりにもグロテスクで巨大な触手に、エイダ は蒼白となった。大きく目を見開いたまま、ブルブルと唇を戦慄かせる。
　思わず喉をひくつかせ、ついに拒絶の悲鳴をあげかけた。
「や、やめ……」
　にゅちっ！ずにゅぐぐぐぐ！！！！！！
「あああああああぁぁぁ！！！！」

　最後まで言い切らぬうちに、極太触手が、膣穴にねじ込まれ る。むりむりと入り口を割り広げられ、肉の凶器で串刺しにされていく。
さんざん触手の体液でぬめりを与えられていて も、その大きさはあまりに規格外だった。
「かふっ！ぐっ！！あ、あ、ぁぁ……」
蜜壷を限界までぎちぎち押し広げながら貫か れ、エイダは悶絶した。
　ビクン！ビクン！と反り返った背筋が痙攣を繰り返す。
膣道を占拠する肉塊は、更に奥を目指してい く。肉と肉が密着しすぎ、殆ど音がしない。その分、襞をこすり上げる強さは強烈で、一突きごとに神経が焼ききれそうに感じる。し かも尋常でなく硬い。肉でコーティンングされているのに、手足を拘束する触手がロープなら、これには鋼鉄の芯が入っているのかと 思うほどだ。
（ま、まだくるの……！？）
　長大な触手は、すでに奥まで届いているのに、挿入を止める気 配はない。
　更に奥へと、子宮口のすぼまりをぐりぐりと押し広げていく。
「ぐっ、ぐぅっ……も、もう、それ以上は…… ひぃいっ！！？？？」
　ぬぽんっ！
　身体の奥で、そんな音が響いた気がした。
「あっ！ああっ！うああぁぁっっ！！！」

子宮口を強引にこじ開けられる激痛に、絶叫が ほとばしる。子宮の内部まで侵入した触手は、膣口と子宮口の二つのリングへ、極太の胴体をみっしりはめ込んだまま長いストローク を開始した。

「くっ！！あ、あぅ！あぅ！！！」

ぬぶぶぶ！！ぶちゅりゅりゅ！！

引き抜く時は、子宮まで引きずられそうになり、奥まで押し入 られれば、内臓全体が上部に押し上げられる。触手の表面から絶え間なく滲む粘液は、膣ひだとの摩擦で細かく泡立ち、結合部から垂 れ落ちていく。

しだいに濡れ音が大きくなり、ピストン運動が滑らかに激しく なる。人間ではありえない長さと太さ。順応し始めた身体から、エイダの意思とは無関係に、発情の牝汗が滲み出る。イソギンチャク 状の触手が、再び陰核に吸い付くと、脳内に火花が散った。

「ふぁ！！あ！あああ！！！」

膣ひだがいっせいにざわめき、胎内の強姦触手を抱き締める。 自由を奪われたまま、四肢がビクビク痙攣した。

（こ、こんな……化物に……）

絶頂を強いられた悔しさに、顔を真っ赤にして苦悶するエイダ を、更なる責め苦が襲い始めた。

球の汗がういている両の乳房へ、二本の触手が それぞれに絡みつく。たっぷりした柔らかな胸脂肪を、根元からむにゅむにゅと揉みしだき、赤く色づいた乳首をくすぐる。

先ほどの絶頂で、すっかり敏感になっていた身体は、愛撫を喜 び乳輪までもぷっくりと膨らみをみせた。

(気持ち悪い！！気持ち悪いのにぃ！！)

全身に絡みつく触手は、どう見ても腐肉色をした化物の触手。 たらたらと流れる半透明の臭い粘液が、ローションのように全身へ塗りたくられていく。

吐き気の込み上げる汚辱でありながら、望まない性感が胎内全 体の熱をあげる。口の両側にも細身の触手が伸び、口腔手術のよ うに強制的に開口された。

「ふひっ！ひゃ……んぷ！！」

ねじ込まれた触手に、一瞬にして口腔内が肉の 感触で占拠される。

「ぐむっ！！むむぅっ！！」

腐りかけの生魚を思わせる臭気と苦味に吐き気 を催すが、別の触手が顎下をがっちり固定し、首を振って逃れることすらできない。

押し戻そうと舌を動かせば、かえって歓喜をあ らわすように触手はビクビクと口の中で跳ねる。触手全体から滲む汚汁と先端から小刻みに吐き出される粘液が、口内いっぱいに溜 まっていく。吐き出すことも叶わず、窒息を逃れたくば、飲み下すしかなかった。

ジュルジュルした気味の悪い粘液が食道をとお り、胃に滑り落ちていく。身体の奥に浸透していくおぞましさに、総毛だった。
「んぐっ！ぐっ！うぇっ！」
強烈な嘔吐感に、えづきながら目を白黒させ る。双胸に張り付いた触手は、パン生地でも揉みし だくがごとく、柔らかな牝脂肪を熱心にこねまわし始めた。
汗と触手の体液が入り混じり、脂肪の狭間でぬ ちゃぬちゃと卑猥な水音がたつ。
「ふぅぅ！！？？」
　喉奥まで突かれながら、エイダは涙で歪む視界を必死でこらし た。
　脚を戒める触手たちが、ぬたくりながら拘束位置を変え、両足 首をクロスした蟹股状態で新たにエイダの下半身を固定する。自然と開いたままになる股関の奥では、薄い褐 色の菊門が、鼻息にあわせヒクヒクと開閉を繰り返していた。
その窄まりを、つんつんと突く感触がある。
（ま、まさか……）
ぬめる触手の先端が、肛門をぐりぐりとほじく りだし、嫌な圧迫感が漂ってくる。
（あ、うぅ……お尻なんて……）
　触手を口と女性器にくわえ込んだまま、クールな東洋系美女の 頬が、限界までひきつる。暴れたくとも全身を拘束された状態では、わずかに筋肉を痙攣させるのが限界だ。

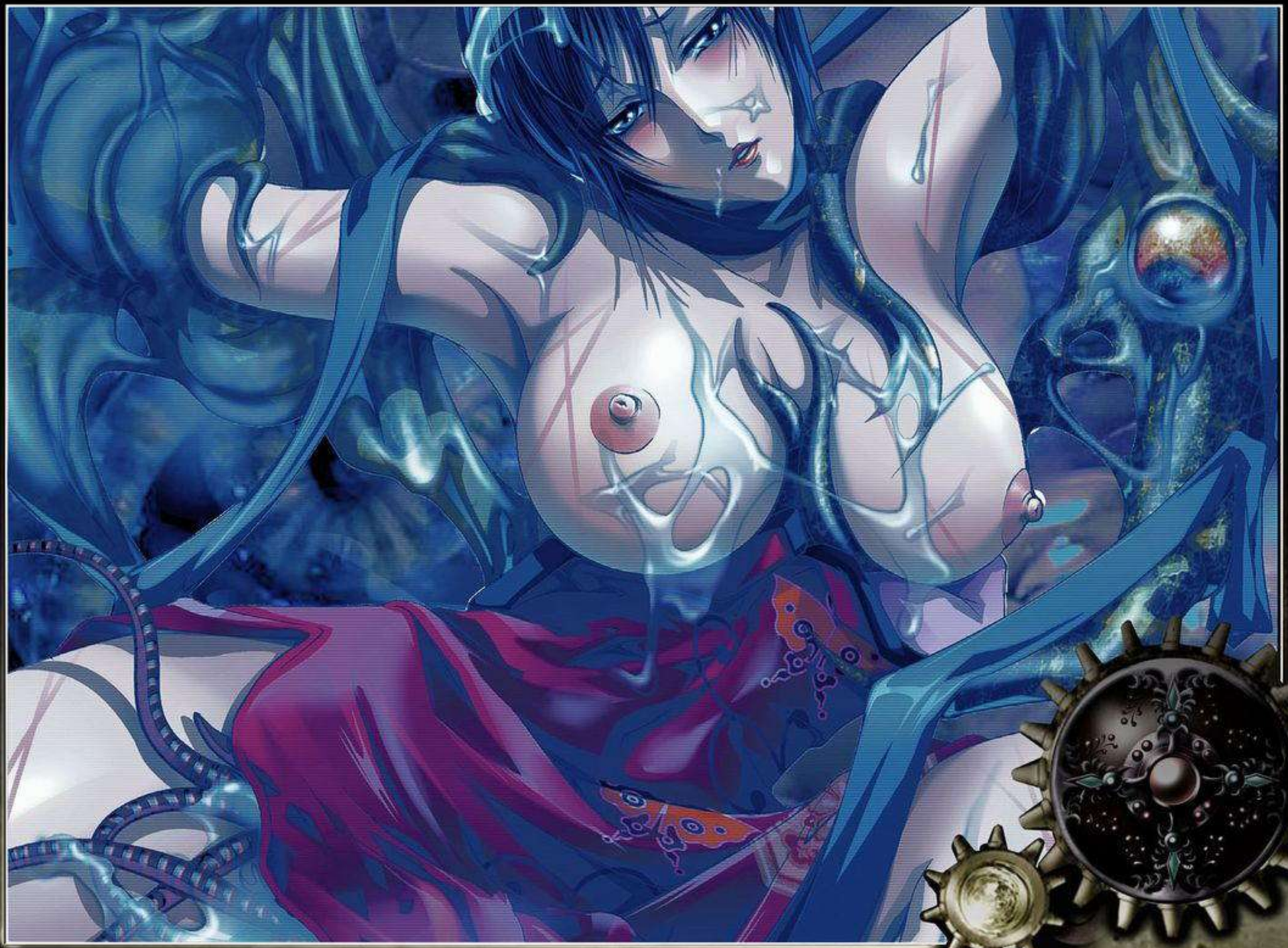
無数の視線に晒されながら、エイダの全身からは、濃密な牝臭が 噴き出す。
「ふぅ……！うぅ！！」
殺意を込め、化物の教祖を睨むが、乳首と陰核 を責める触手が再び熱心な動きを再開すると、そんなささやかな抵抗すらも続けられなくなる。
こりこりと乳首をくすぐり、陰核を吸い上げな がら、触手たちは絶頂寸前でパッと離れ、また寸前まで追い詰めるという残酷な手段に出始めた。
「うぐぐっ……ふんん～っ！！」
　理性ではイかされたくなどないのに、エイダは無意識のうちに 見事な丸みのヒップを揺すり、くいくいと淫らに腰を振る。口いっぱいに詰め込まれた触手のせいで、鼻息が自然と荒くな る。下腹を二本の触手で満たし、口にも腐肉の触手 をくわえ込んだエイダを、無数の触手たちが撫で回していく。
　頬にも肩にもわき腹にも、大小の触手が白肌を舐めあげる。脇 の下にもぐりこむもの、艶やかな黒髪に粘液をこすりつけるものもいた。
（狂うっ！う、うぅ……狂っちゃう……）
何度も意識が遠のきかかるが、そのたびに胎内 の触手たちがビチビチを激しく跳ね、気絶することすらできない。しかし、嘔吐を必死で押さえる舌の痙攣が、触手には心地よかったらしい。口内の触手が大きく身を震わせ、生臭いドロリとした液体があふれ出す

「んぐっ！ぶぶっ！！」
　びゅるびゅると噴出す熱い雄汁は、バニラシェイクより濃い上 に、量も異常なほど多い。
喉にこびり付く濃厚な白濁を、なんとか飲み下 すと、じゅぽんっ！と音を立てて、ようやく口内の触手が抜けた。
「げほっ！げほほっ！！」
　腐臭と精臭に澱んだ空気でさえも、思う存分吸い込めるのは、 たとえようもなく幸せだった。しかしその安堵もつかの間。両乳房に絡みつく触手が、激しく うねり始めたのだ。根元から引きちぎらんばかりの勢いで、狂ったようにたわわな二つの果肉を絞りあげ、何かを催促するように乳首 を押しつぶしては引き伸ばす。
「ひっ！！ひぎぃっ！！？？」
乳房の両先端を襲う違和感に、エイダの目が カッと見開く。新たに伸びた手術糸よりも細い触手が、乳頭の先端から体内へ潜りこんできたのだ。
極細触手は母乳を分泌する乳腺を直接嬲り、微 弱な振動をもって
豊乳を内からくすぐる。ただでさえ硬くしこりきった乳首の芯に、
奇妙な灼熱がわきあがる。
出産経験のないエイダには、その正体がまだ理 解できなかった。
「あ、熱ひぃ……な、なにっ！？あっ！！ああ あぁぁぁぁッ！！！」

ピッ！！と、乳白色の半透明な体液が一滴、エ イダの乳首から吹き上がった。しかしそれは決定打で、ほんの始まりだ。
「うそっ！あああああああ！！！！！！！」
乳房の奥深くから、熱い液体が出口を求めて駆 け上がり、二つの乳首から噴水のように母乳が噴き上がる。
　生暖かい母乳の飛沫を振りまくエイダに、膣と肛門を貫く触手 たちも本格的な攻めを開始する。
子宮を押し上げるピストンが肉欲の本能を煽り たて、太ももが尻に打ち付けられる感触と、肉のぶつかり合う音が、これが性交だと、よりはっきり伝えてくる。

異種交配。
異形の化物に犯され、彼らの精子を注ぎ込まれ る瞬間が近づく。
灼熱の渦に脳が焼かれる。胎内で卑猥な音色が 響くたび、頭に中で火花が弾け散った。
半開きになったエイダの口からは、ダラリと舌 が垂れ、涎と鼻水が
美しい顔を伝う。
「はっ！あふっ……は、ぅぅ！！！！」
子宮と肛門を犯す触手が、不意にぐんと膨らんだ。
びゅぶくるるるる！！！どびゅ びゅ！！ぶびゅびゅびゅ！！

二孔の奥に、白濁液が盛大にぶちまけられる。
同時にエイダも……
「あ、あ、お、あああああああ！！！！！」
　ガクンガクンと、しなやかな全身が激しく痙攣した。ぎっちり と触手をくわえ込んでいる結合部のわずかな隙間から、愛液が噴出す。
　ぷしっ！ぴゅっ！しゅわぁぁぁ……。
　ひくつく尿口からも、薄金の小水が勢いよく噴射された。
「あ、あふ……ひっ……ひっ……」
「くっく……さすがに失禁したか」
　白目を向き痙攣しているエイダの耳には、サドラーの嘲笑も、 届かなかった……。



すでにどれだけの時間が経過したのか……。
エイダの全身には、乾いた白濁液が何層も分厚くこびり付き、 まだ乾ききらぬ分がどろどろと滴りおちていた。
美しいチャイナドレスは見る影もなく破られ、汚汁にまみれボ ロ切れ以下になり下がっている。描かれていた深紅の蝶も、もはや判別不可能だ。
「ふ、うむ……んん……」
エイダは今も、前後を二人のガナードに挟まれ、膣と肛門を同 時に貫かれていた。
疲れを知らぬガナードたちは、昼夜を問わずしてエイダを犯し 抜き、欲望を注ぎ込まれ続けた腹は、妊婦のように膨れ上がっている。
もちろん口には触手をねじ込まれ、余すところ なくその肉体を有効活用されていた。
ヌチャヌチャと粘着質な陵辱音が、地下室全体 に響く。

――捕らわれた工作員の末路ほど、悲惨極まるものはない。特に 女は、な。

この職業につく際、上司から最初に教わった教 訓が、白濁に霞んだ
エイダの脳裏へ、冷酷に響いた。

終

御礼

この度は当サークル作品集を手に取っていただき誠にありがとうございます。
今後もよりいっそうの精進に努めますのであたたかく見守って下さいますようお願い申し上げます。

2013年6月19日

---注意---
18歳未満の方の視聴を禁止します。
作品中の画像データの無断転載及び、
個人以外での利用を禁止します。

---連絡先---
JUNKセンター亀横ビル
crescent@wc4.so-net.ne.jp